Japan Society of Obstetrics and Gynecology

研修コーナー

book review

The endometrium : A clinicopathologic approach

Debra S Heller

IGAKU-SHOIN LTD. ¥12,400

編集者のD. S. HellerはColumbia大学産婦人科のassistant professorであるが，産婦人科病理学とくに子宮内膜の臨床病理を専門に研究してきた．本書では，彼女をはじめColumbia大学を中心に5人の著者によって，産婦人科臨床に必要なあらゆる角度から子宮内膜の生理，病理が解説されている．まず，産婦人科独特の子宮内膜の特徴が，超音波所見，子宮鏡所見など臨床的な見地から解説されている．後半では，正常子宮内膜はもとより，endometrial hyperplasiaからendometrial carcinomaまで各種の病的子宮内膜の病理組織所見が，実際の組織写真を示して，懇切丁寧に解説されている．hyperplasiaなどその取扱いに注意が必要な疾患では，治療法や取扱いなどについても詳しく解説されている．また，各種hormoneによる子宮内膜の変化などについても実際的に解説されているので，近年増加してきたHRTなどに際しても参考になる．何よりも，超音波所見にしても，病理組織所見にしても，実際の写真を多数用いているので，研修医が実際臨床の場で症例の取扱いをする上で参考になる一冊であるといえよう．

京都大学医学部婦人科産科助教授 **佐川 典正**

Benign to Malignant Progression in Cervical Squamous Epithelium

R L Ehrmann

IGAKU-SHOIN LTD. ¥14,900

今や子宮腟部スメアはわが国でも各自治体を中心に，主に30歳以上の女性を対象に大がかりな癌検診事業の一つとして定着している．

腟部スメアに関する興味は，前癌段階としての頚部dysplasiaの分類などから，今日では頚癌との関連からHPV効果に移っている．また，診断や治療をできる限り一元化させるべくアプローチの一つとして，診断用語の簡略化がすすんでいるようである．われわれは子宮頚部の悪性変化を細胞スメアの所見に対応してよりよく理解してゆくためには，新しい所見や概念との関連付けは重要であり，HPVや頚癌の発癌遺伝子との関係を研究してゆく限り生じてくるものである．

したがって，本書では婦人科医や病理専門家に頚部上皮の癌や悪性変化などについて，基本的な形態学所見の紹介のみならず，HPVによる影響や病理学者との間の溝を埋める努力の結果として提唱されているBethesdaの分類を取り上げ，従来の見解と関連付けて解説している．

本書はB5版，全7章，256頁からなり，まず基本的な細胞形態学を論じ，続いて上皮内癌やHPV感染を含む頚部浸潤癌について述べ，浸潤癌への前段階としてのatypical differentiationにも重点をおいて記載している．また，最後には頚部腺癌や，組織生検

NII-Electronic Library Service